



佐野短期大学学報

# か た く り



ACCREDITED  
2005

本学は平成17年度(助)短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定されました。

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町1297

電話 (0283) 21-1200

入学特集号



## 祝入学



### 大学の主な行事予定 (春期)

- 4月6日 入学式
- 9日 オリエンテーション (～11日)
- 16日 春期授業開始
- 5月1日 創立記念日
- 14日 介護2年居宅介護実習Ⅱ  
(2日間適宜実施)
- 6月11日 児童2年教育実習 (～29日)
- 8月7日 夏期休業開始 (～9月14日)
- 社会2年相談援助実習Ⅱ  
(18日間適宜実施)
- 20日 児童2年保育実習Ⅱ・Ⅲ  
(～9月3日)
- 27日 介護1年基礎演習Ⅰ  
(～9月8日)
- 介護2年施設実習Ⅱ  
(～9月22日)
- 9月3日 栄養2年学外実習 (～15日)
- 11日 児童2年保育実習Ⅰ (～21日)
- 21日 秋期オリエンテーション
- 24日 秋期授業開始
- 28日 社会・介護1年  
国際福祉機器展見学

## 新入生に贈るメッセージ



### 短大生活で 人間形成を図る

学 長 こしみず まさる  
興水 優

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。佐野短期大学の教職員を代表し、ご入学を心から歓迎いたします。保護者の方々にもお慶びを申し上げます。

佐野短期大学は平成 2 年に開学して以来、時代の流れと社会にニーズに応じた改革を重ね、発展を続けてきました。一昨年 4 月には、それまでの 3 学科 4 専攻を統合改編した「総合キャリア教育学科」がスタートしました。今春 3 月、この新学科の第 1 期生が巣立ちました。

新学科には 12 の専門フィールドを設けています。その中には介護福祉士、保育士、栄養士などの養成課程も含まれていますが、これは他の短期大学ではあまり見られない形態です。新学科では、みなさんがそれぞれ自分の好きな科目、得意な分野、関心のある仕事を考え、修得したい技能や取得したい資格とリンクした科目群で構成されるユニットを選び、自分の適性にフィットした進路設計をします。「総合キャリア教育学科」の名が示すように、単一の総合学科ですから、メインユニットの選択で所属のフィールドに閉じこもってしまうのではなく、さらにサブユニットやアラカルトでも科目を選べるので、領域を広げ、自身のキャリアをさらに充実させることができます。ただ、養成課程では必修科目がやや多いので、他のフィールドより努力が必要かも知れません。もしもあれこれ興味を感じ、選択に迷うことがあれば、入学後でも、履修ガイダンスにより、専攻フィールドを再検討し、適性ととのミスマッチや、就職で悩むことがないように、総合学科の特性を生かした指導が容易です。

「総合キャリア教育学科」では、全フィールドを通じての必修キャリア教育を在学中の 2 年間にわたり受講しますが、これは卒業後にみなさんが専門の職業人として、また自立した社会人として存在が認められるように、人間形成にかかわる教育の重視を意味しています。将来、さまざまな場面でみなさんの人間形成が問われ、社会人としては、特に判断力が必要です。これまでは、必ずしも自身で判断せず、流れに従って物事を処理していたかも知れませんが、これからは自らが判断力をそなえた社会人に成長しなければなりません。折しも、昨年からは順次実施されている、小中高校の新しい学習指導要領では、知識や技能の修得とともに、思考力、判断力、表現力の育成が重視されています。社会人として最も人格を問われるのは判断力であると、私は考えます。短大生活で、広い視野と確かな視点をそなえた社会人を目指しましょう。



### 自ら思考を深め 人間力を養う

理事長 浦田 奨

新入生の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。私たち学園関係者一同、皆さんを心より歓迎いたします。

さて、今日の入学式は、高い志を持ち意欲に燃える皆さんが一堂に会し、学生生活への決意を新たにす大切な日でもあります。そこで、これから始まる短期大学での学びについて、皆さんにお話ししておきたいことがあります。

これまで、おそらく皆さんにとっての学びとは教科書主体の学習、つまり知識の蓄積がその中心だったと思います。したがって常にそこには答えがあり、教師の話聞き取ることが最も大切なこととされてきました。しかし短期大学における学びには、高校で学んだ知識の上に、自ら問題を発見し、思考を深め、結果に導いていくという、能動的に課題に取り組んでいく姿勢が強く求められます。そこに既存の答えはありません。このような学習観の変化に始めは戸惑いを感じるかもしれませんが、このような学びの姿勢は皆さんが将来、社会に出て未知の問題に遭遇したとき必ず求められる能力です。

学問を追及することは、道を求めるという意味では仏道の修行に相通するものがあります。仏道の修行過程を表す言葉に、聞いて理解するという「聞慧」(もんえ)、それをよく考えてみるという「思慧」(しえ)、修行して悟るという「修慧」(しゆえ)の三つがありますが、これから皆さんの学びは、高校までの暗記中心、いわば仏道の「聞慧」とも言うべき段階を超え、「思慧」あるいは「修慧」を通して思索と行動を継続することに他なりません。

一方、そのような姿勢を持って短期大学での学びに能動的に取り組むためには、学問に対して強い意欲を持つことが肝要です。そして、そのような意欲を持つには、自分にとって未知な領域のことに對して、強い好奇心を抱くことがまず必要なことです。

ノーベル物理学賞を受賞された益川敏英先生がよく講演会などでお話しされることの一つに、「井の中の蛙(かわず)の定理」というものがあります。井戸の中から蛙を出して井戸の淵に置いてあげる。そうすると、蛙は「こんな広い世界があったのか」と分かる。そして、ずっと向こうに広がる大地を見渡して、「この先に何かあるのだろうか」という想像を始める。蛙にとって井の中の「1」に「0.5」の大地が加わることで、新たな好奇心と想像が生まれてくるのです。これを短期大学での学びに置きかえれば、自ら専門とする「1」という学問領域に新しい「0.5」という別の学術的視点を加えることで、新たな好奇心、ひいては学問への強い意欲を育てることができるといふことになります。「井の中の蛙の定理」に見える学問観は、短期大学で学ぶ皆さんにとって、きわめて意義深いものに違いありません。

幕末の志士の一人、橋本左内が嘉永元年(1843年)、満 14 歳の時に認めた自己規範に「啓発録」というものがあります。左内はこの「啓発録」で「去稚心」(ちしんをさる)「振気」(きをふる)「立志」(こころざしをたつ)「勉学」(がくにつとむ)「扱交友」(こうゆうをえらぶ)という 5 カ条の自己規範を定め、大いに発奮して志を立てようとしていました。特にその「立志」の中では、書物を読んだり、師や友人に教えられたり、あるいは苦難にぶつかってそこから発奮し、己を奮い立たせて初めて、志は立ち定まるものであると述べています。

「啓発録」を改めて読むと、身が引き締まるような高潔さに溢れ、それは時空を超えて胸中に響き渡ります。安きに流れ、勉学を怠り、日々を安楽に過ごすようでは真の志は生まれません。あえて困難を歓迎し、逞しくそれを乗り越え、揺るぎない強靱な心をつくりあげねばなりません。

このような若者らしい高潔な気概を胸に、皆さんがこれから本学で送る 2 年間で、強い好奇心を持って積極的に学び、その先の輝かしい未来を力強く歩まれることを期待申し上げます。

## 新入生に贈るメッセージ



### 日本再生の担い手に

学園長 池田 健次

新入生諸君のご入学を心から歓迎いたします。また、ご父母の皆様方に対しましても謹んでお祝い申し上げます。

新入生諸君は本日から 2 年間この学び舎で学園生活を送る事になりますが、本学は自主創造の理念を基調に、実学志向を優先した「想う人・考える人・行う人」を教育目標に掲げて、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努めて参りました。

新入生諸君も本学が意図する理念を理解されて、各人が希望する専門分野を貪欲に学び取り人格の陶冶と確固たる職業意識を身につけるべく精一杯の努力をされて、望まれる社会人として大きく育って行って欲しいのです。そして震災で疲弊した日本再生の強力な担い手となるように、期待をしています。

今、我が国は激動の時代を迎えています。昨年、東日本大震災からの本格的な復興はその基礎がようやく整いつつある段階ではありますが、長期化する経済不況と国内政治の混乱は未だに解決の糸口を見い出せない状況です。さらに国際的な金融不安が広がり、世界的な規模で混迷した時代を迎えております。

今、我が国も世界の国々と同じような混迷の中にありますが、私たちの国には世界に誇る大きな美徳があります。東日本大震災でも見られたような秩序ある行動様式と助け合いの心です。古来より我が国は幾度となく危機にみまわれましたがその都度、人々は互いに助け合い一致協力して困難を乗り越えてきました。危機や苦難にどう対処したのかは当然重要なことですが、注目してほしいのは、先ずもって「人々が互いに助け合い一致団結した」ということなのです。この助け合いの精神と団結心こそが日本を語るうえに欠かせない大きな美徳であると思います。

江戸時代末期、日本を訪れたある外国人が書き残した書物の中に、日本人は「礼儀正しい」「我慢強い」「相手を思いやる」「無為な争いを避ける」「そんな暮らし方を全員が共有している」と言ったことが書かれていました。そして「こんな素晴らしい国が世界の中にあっただのか」と感心していると結んでいます。さらに後年、かの天才アインシュタインが日本を指して「こんな素晴らしい国はずっと永遠に残ってほしい」と語った話は有名ですが、これは日本人の根底にある精神或いは美徳とも言えるものを指した言葉だと受け取れます。

先の東日本大震災直後に外国人が見た日本人の行動は正にそのとおりのものでありました。人々は我慢強く列に並び、取り乱すこともなく秩序を守り、多くの人がボランティアに赴きました。

今の日本に必要なことは、この日本人が持つ美徳を生かすことにあります。助け合いの精神と忍耐強さをもって今の困難に立ち向かうことが大切なのです。そして、自らが課題や難問に取り組む強い意志と気概を持って道を切り開く力を示す時なのです。

新入生の諸君には、本学の総合キャリア教育学科において幅広い教養と専門性を身につけると同時に、多方面に広い視野を持ち大きな希望と夢を抱いて活躍されるよう願っています。二年後、卒業を迎える頃には必ず日本再生への道程も大きな進捗をみせていることと思います。新入生諸君のますますの成長と飛躍を期待しています。

## 人 事

( ) は前任

### 〔新規採用〕 < H24.4.1 >

兼任講師	岡村 幸重	小鮒 滋則
	須見 元	鈴木 恵美
	井上 美和	草野 真範
	今井 雄紀	丸山 利子
	斉藤 智子	新村 悦子
助手	大久保佳世	板谷美友希
学務課	駒場 俊太	
進路指導課	片柳 亜紀	

### 〔任用換え〕 < H24.4.1 >

教授	阿部 芳子 (特任教授)
特任教授	國分 三郎 (教授)
特任講師	古川 貴子 (兼任講師)
兼任講師	長江 弘晃 (教授)
総務課常勤職員	鈴木 知美 (総務課非常勤)

### 〔昇 格〕 < H24.4.1 >

教授	大熊 信成 (准教授)
	小林 大輔 (准教授)
	和田 晴美 (准教授)
	森 千佐子 (准教授)
学務課長補佐	大橋 義成 (学務課主任)

### 〔異 動〕 < H24.4.1 >

高校・中等教育事務	野代 浩子 (進路指導課)
-----------	---------------

### 〔配置転換〕 < H24.4.1 >

総務課	森戸 泰世 (学務課)
-----	-------------

### 〔退 職〕 < H24.3.31 >

教授	橋本 佳子
特任教授	松崎 宣子 日比野 清
兼任講師	寿 マリコ 深井 徹
	古川 慎一 佐藤 文江
総務課	関塚 忍

### セクハラ相談員

下記の教職員が相談に応じます。相談の内容については秘密を守り、相談者の不利益にならないよう十分に配慮します。お気軽にご相談ください。

立川 聡子、大熊 信成、和田 晴美、  
山内 健次、堤 裕美子、高橋登美子、  
森田 悠子、中島 佳子、堤崎 真里、  
篠崎 文子

